

## 回復計画および健全化計画に用いる 最低責任準備金のコロガン利率について

対象先	DB年金	厚年基金	適格年金	退職金	DC
内容	法令通知	財政運営	資産運用	会計基準	その他

※ご参考に厚年基金以外のお客様にも送付させていただきます。

### ポイント

回復計画の将来予測に使用する最低責任準備金の付利率(平成25年(暦年)以降適用する利率)について、以下のとおり行政確認が得られましたので、ご案内いたします。

- ゼロ以下の利率を使用することは不可
- 基金が「合理的に見込まれる率」と判断した利率がゼロを上回っていれば、当該利率は認められる
- 指定年金数理人は当該利率について評価し、その結果を所見に記載する

### 背景

平成22年4月1日から平成23年3月31日までの厚年本体における運用利回り $\Delta$ 0.30%(弊社推計値)を使用すると、コロガン利率算定に利用可能な厚年本体の直近5年の運用実績の平均値は「 $\Delta$ 0.01%」と推計されるため、「合理的に見込まれる率」の取扱いについて確認していたものです。

⇒詳細は [年金ニュースNo.245](#) ご参照

### 回復計画上の最低責任準備金の付利率の算定方法について

✓ 回復計画策定上の最低責任準備金の予測に使用する付利率は、次の①か②のいずれか小さい率を下回らないこととされている。

- ① 利用可能な厚生年金本体の直近5年の運用実績の平均値  
ただし、当該平均値がゼロを下回る場合は、当該実績値に基づき合理的に見込まれる率を使用する
- ② 厚年本体の財政上の利回りの前提(平成25年1.92%、平成26年以降2.03%~4.10%)

※ 健全化計画策定上は、①、②のいずれかを用いることと定められている。

## 合理的に見込まれる率の例

✓ 以下の利率は、「合理的に見込まれる率」の例として行政確認が得られたものです(平成23年3月末基準)。

- ① 0.01%・・・厚年本体の直近5年(平成18年度～22年度)の運用実績の平均が、 $\Delta 0.01\%$ となるためゼロを上回る率として、百分率(%)で小数点以下第3位を四捨五入して得られる最小値
- ② 0.14%・・・厚年本体の直近3年(平成20年度～22年度)の運用実績の平均値

厚年本体の運用実績	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	直近3年平均 (平成20～22)	直近5年平均 (平成18～22)
	3.10%	$\Delta 3.54\%$	$\Delta 6.83\%$	7.54%	$\Delta 0.30\%$ (注1)	0.14% (注2)	$\Delta 0.01\%$ (注2)

  

回復計画(健全化計画)上適用年(暦年)	平成23年	平成24年	平成25年
	7.54%	$\Delta 0.30\%$ (注1)	合理的に見込まれる率 例)0.01% 0.14% (注2)

(注1)平成22年度については弊社推計値

(注2)平成22年度の運用実績により結果は変わります。

以上